

# 香椎 KASHII



## 楠の並木に 誘われて

香椎地区

歴史ガイドマップ



10年に一度の「香椎宮勅祭」 平成27年10月9日 写真提供：相野裕治氏

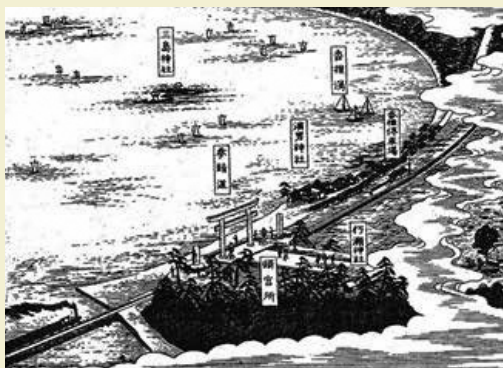
# 香椎地区

ガイドテキストを参照しながらご覧ください



## 香椎の概要

### 概要



昔の香椎瀉

**山麓**：外周の山麓は立花山，三日月山がありハイキングコースとして市民に親しまれています。

**丘陵**：山麓より丘陵が続き，昭和40年代になって大規模住宅開発が行われました。

**平地**：大昔は海岸線が奥まで入り，湿地を農地として開拓し，戦後は住宅不足解消のため宅地化が進みました。

**海岸**：昔は香椎瀉として多くの入り江がありました。近年は大規模な埋め立てが進んでいます。

**交通**：昔は唐津街道が通っていましたが，道路は国道3号線，バイパス，都市高速が走り，新たなバイパスも香椎宮側に開通しました。

鉄道はJR鹿兒島本線，香椎線，西鉄貝塚線があり，交通網の通過点として重要な位置を占めています。

# 香椎の歴史的背景と変遷

## ■ 歴史的背景

**大昔**：香椎宮周辺が生活の中心地でした。

**伝承**：仲哀天皇が筑紫に下り、熊襲征伐の大本営を香椎宮に置きました。

**地名**：仲哀天皇が亡くなり、お棺を椎の木に立て掛けたところ、良い香が漂ったので香椎と名付けたといわれています。

また、「カシ・ヒ」→「カシグ・へ」は「傾ぐ・辺」で、丘陵が傾いて海に落ちる辺りの地形を表しています。

**三韓出征**：伝承では神功皇后の三韓出征の話などもあり、朝鮮半島との交流が活発に行われました。

**戦国**：立花城をめぐる戦いがあり、老いの山城のある香椎の地はたびたび戦火に遭いました。

**江戸**：裏糟屋の穀倉農産物の中心地として栄えました。

**近年**：明治 22(1889)年の町村制の実施で香椎・浜男・唐原・下原の四村が大字となり統合され、糟屋郡香椎村が発足しました。

昭和 2(1927)年、糟屋郡香椎町となり、昭和 30(1955)年、福岡市に編入され、ベッドタウンとして発展しました。

## ■ 香椎の変遷

### 古代の海岸線（推定）

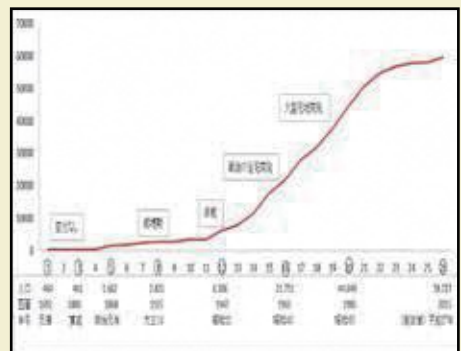
古代の香椎地区は海岸線が大きく湾入していました。太平洋戦争後、農地の宅地化、大型の宅地造成と香椎潟の埋め立てが進み、アイランドシティが整備されました。



### 現在の香椎潟の状景



### 香椎の人口推移グラフ





## 伝承の地

### 仲哀天皇大本宮址碑

現在地 香椎3丁目12

古地名 大字香椎字別所

仲哀天皇が熊襲征伐に  
来られた時に大本宮が置  
かれたところです。



### 古宮（香椎宮起源地）

現在地 香椎3丁目12 古地名 大字香椎字別所



仲哀天皇が神々のお  
告げを聞かれた所  
(沙庭<sup>さになわ</sup>)といわれてい  
ます。仲哀天皇の  
行宮・檀日宮址であ  
り、神功皇后が自ら  
天皇の神霊を祀られ  
た香椎宮創建の地

で、大正4(1915)年に香椎宮の本宮へ移  
されました。香椎の地名の由来となったと  
いわれる「棺  
掛けの椎」が  
あります。



### 不老水

現住所 香椎3丁目8

古地名 大字香椎字老の谷

武内宿禰  
の屋敷内から  
湧き続けてい  
た「不老水」  
です。



宿禰は仲  
哀天皇と神功皇后に炊飯して献上し、自ら  
もこれを用いて300歳の長寿を保ったと  
いわれています。香椎宮では正月に今でも

「不老水」にご  
神木の「綾杉」  
を添えて皇室  
に献上していま  
す。名水百選に  
も選ばれています。



### 応神天皇誕生

熊襲征伐のため檀日(香椎)宮に入られた  
仲哀天皇は間もなく亡くなられますが、代  
わって神功皇后が熊襲を討ち、三韓に出征  
しました。

三韓から帰還して、糟屋郡の宇美八幡宮で  
応神天皇が誕生されたといわれています。



### 武内宿禰(タケノウチノスクネ)像

「古事記」によると武内宿禰は、景行、  
成務、仲哀、応神、仁徳天皇の5代の天皇  
に仕え、300歳の長寿を誇った伝説の大臣。  
景行天皇の時に蝦夷地を視察、成務天皇の  
時に政治を補佐、仲哀天皇に従い九州に遠  
征、天皇亡き後神功皇后に従い三韓出征を  
実現、応神天皇  
即位に貢献され  
ました。

当像は博多人  
形師"亀田均氏"  
の作で、昭和50  
(1975)年10月  
に制作されたも  
のです。



## 兜塚

現住所 香椎駅前1丁目26

古地名 大字香椎字兜塚

神功皇后が三韓出征の時、ここで兜を着けたといわれています。



## 鎧坂

現住所 香椎駅前3丁目

古地名 大字香椎字鎧坂

浜男から旧国道を唐原へ3号バイパスまでの登り坂を鎧坂と言います。

神功皇后が三韓出征の時、この坂で鎧を着けられたといわれています。

昔は、ここで下馬をしないと落馬をするといい伝えられ、恐れられていました。



## 片男佐

現住所 御島崎1丁目

古地名 大字香椎字片男佐

神功皇后が髪を男のように結われ、衣装は女物なので半分男になったという意味で「片男佐」の地名になりました。



## 濱男神社 (ハマオジンジャ)

現住所 香椎駅前1丁目

古地名 大字香椎字宿

ご祭神は不詳ですが、神功皇后の三韓出征時に、海上を司った神と言われていました。

昔は毎日、神官が御島神社へ渡ってお参りし、悪天候の時はここで遙拝しました。

神社は昔、香椎潟海浜のすぐ横に接していましたが、大正年間に現在地に移されました。



## 御島神社 (ミシマジンジャ)

現住所 香椎潟内

古地名 香椎潟内

香椎潟海中に鎮座し、ご祭神は綿津見神です。

仲哀天皇崩御後、神功皇后が神託を伺いに渡られた島で、三韓出征の時、海水で髪を洗い男髪「みづら」と言う男髪(髪分占い)にされた所といわれています。





# 香椎宮と周辺マップ



# 香 椎 宮

現在地 香椎4丁目 16-1

古地名 大字香椎字馬場



◆ご祭神：主祭神として、仲哀天皇・神功皇后が祀られています。

◆ご神木：神功皇后が三韓よりご帰還され剣・鉾・杖の三種宝を埋め、そこに鎧の袖に挿していた杉枝を「永遠に本朝を鎮護すべし」と植えられて成長したものと伝えられています。葉が綾のように交互に生えているので綾杉といわれ、古来よりこの杉の葉を朝廷に献上しています。

## ◎ 新古今和歌集・綾杉の碑

綾杉の傍らに、新古今和歌集に詠まれた古歌を刻んだ碑があります。

『千早振 香椎の宮の綾杉は 神の御供木にたてるなりけり』(詠み人知らず)

御神木を讃えるこの歌碑は明治14(1881)年の建立。書は、最後の太皇太后・初代福岡県知事有栖川宮熾仁親王です。



◆創建：聖武天皇神亀元(724)年香椎廟として創建されました。明治になって官幣大社となりました。戦後は香椎宮と称しています。

## ◆勅祭社：

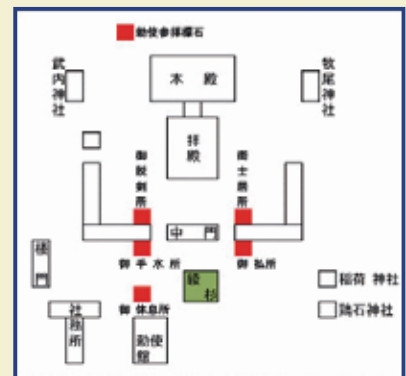
古くより皇室の崇敬が厚く、天皇より勅使が遣わ



され、ご幣物を奏りご祭文が奏上されます。この祭儀を勅祭といい、執り行う神社を勅祭社といいます。勅祭社は全国で16社あり九州では香椎宮と宇佐神宮の2社です。また、大正14(1925)年以降勅祭は10年ごとに執り行われます。

## ◆勅使参拝標石：

勅使又は大宰帥が香椎廟に参拝した時の昇殿迄の順序場所を指示し、「御休息所」「御手水所」「御弘所」「御脱剣所」「衛士居所」の五つの標石で奈良時代に建てられたといわれています。



■文豪夏目漱石は明治29(1896)年、新妻の鏡子を伴い香椎宮を参拝。その時詠った有名な句があります。「秋立つや千早ぶる世の杉ありて」



# 香椎宮の社殿

## 本殿

天正 14(1586)年, 島津軍の立花城攻めにより社殿を焼失しました。翌天正 15 (1587)年 小早川隆景により再建されましたが, その後炎上し, 享和元(1801)年 10 代黒田藩主 齊清(幼名は長順<sup>ながよりの</sup>)により建て直され, 現在に至っています。

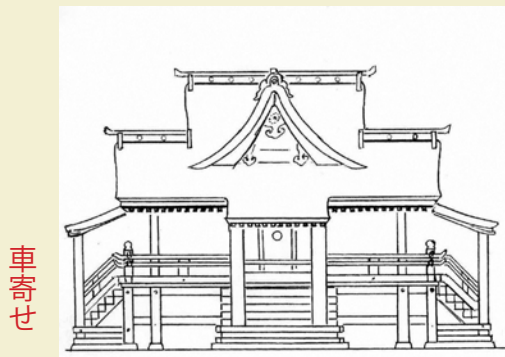
## 建築様式

特徴は縦三間の入母屋造り, 横三間の平入りで一間の外陣その外に一間の「車寄せ」があります。

複雑な構造や屋根の形で, 本殿建築様式は「香椎造り」として, 国の重要文化財に指定されています。「車寄せ」は, ご祭神が鳳輦<sup>ほうれん</sup>にてお出りのためのものです。



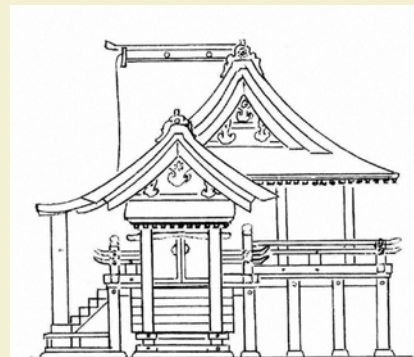
## 【香椎造り】



本殿正面

車寄せ

車寄せ



本殿側面

前

後

車寄せ

現在の幣殿以下の建物は公爵鷹司熙通<sup>たかつかさひろみち</sup>を総裁に, 福岡県知事寺原長輝<sup>ついでんかい</sup>を会長として追遠会が結成され, その奉仕により幣殿以下の建物は明治 34 (1901) 年から 7 年間で, 造り替えられ完成しました。

「幣殿」 勅使御参拝の時ご幣物を捧げられる所

「拝殿」 幣殿の前の参拝をする所  
(平成 19 (2007) 年再建)

「中門」 社殿前の単層の門で左右に廻廊を廻らした檜 (けやき) 造り朱塗りの門





「楼門」 重層の雄大な建造物で総檜白木造りで左右に筋塀があります。

「筋塀」 じょうぎぶち 定規縁といわれる白い横線を入れた築地。御所・寺院で用いられ、筋の数は格式により異なり、五本を最上としました。



武内神社



巻尾神社

「勅使館」 10年毎の勅使参拝の時、勅使が宿泊になる所。

### 境内摂社

【武内神社】 本殿左側玉垣外にあり大臣 おおみ 武内宿禰が祀られています。

【巻尾神社】 本殿右側玉垣外にあり中臣 いかつ 烏賊津大連が祀られています。

### 境内末社

【鶏石神社】 中門下綾杉の側にあり鶏を祀る日本でも珍しいお宮で子供の夜泣き等にご利益があるといわれています。

【稻荷神社】 鶏石神社と並んで五穀豊穡商売繁盛の神として祀られています。

【早辻神社】 大伴武以大連が祀られています。

【弁財天社】 芸術の神・弁財(才)天が祀られています。



左：稻荷神社 右：鶏石神社

早辻神社



弁財天社



## 楠の風・並木道

### 頓宮

現在地：香椎1丁目21

古地名：清水田<sup>すましでん</sup>

隔年毎の御神幸のお仮屋で、昔は本殿、拝殿があり、香椎瀧を見下ろす事ができました。御神幸の時、御輿がここに一泊されます。延元元(1336)年、室町幕府をつくった足利尊氏が多々良浜合戦の軍議を行い勝利しました。



### 香椎瀧万葉歌碑

頓宮境内には、明治21(1888)年建立の万葉仮名による、三条実美卿筆の歌碑があります。

神亀5(728)年11月 大宰帥・大伴旅人が大弐・小野老、豊前守・宇努首男人らを従えて香椎廟に参詣。その帰途、馬を風光明媚な香椎の浦にとどめて三人がうたを詠みました。「いざ子ども香椎の瀧に白妙の袖さえぬれて朝菜摘みてむ」大伴旅人(万葉集・巻六・957)



### 香椎宮参道(勅使道)

現住所：香椎1・4丁目

古地名：大字香椎字清水田・蟻道

JR香椎踏切の大鳥居から香椎宮の間は、大正11(1922)年、貞明皇后のご行啓を記念して、大正15(1926)年に福岡県の団体から165本の献木された楠の木が両側に植えられた香椎宮参道です。

新緑の季節は淡い緑が美しく、夏は見事な緑のトンネルをつくれます。



### 貞明皇后行啓記念碑

現住所：香椎5丁目15

古地名：大字香椎字嵯峨原

大正11(1922)年3月21日貞明皇后が大正天皇病氣平癒祈願と皇太子が欧州よりの無事帰朝感謝のため、香椎宮を行啓されたことを記念して昭和7(1932)年に建てられた記念碑です。





## 香椎宮とその周辺

### 報恩寺

現在地 香椎3丁目

古地名 大字香椎字別所

日本禅宗の始祖栄西上人が、宋より帰国して建久3(1192)年、建久報恩孝光禅寺を建立しました。その時、日本最初の菩提樹を持ち帰り植樹しました。

天正14(1586)年、島津軍の兵火のために、寺と共に焼失したので、東大寺へ分植されていたものを現在の地へ植え替えました。樹齢は、800年とされています。



### 薬師様 (上組・下組)

上組 現住所 香椎3丁目23

古地名 大字香椎字生水

下組 現住所 香椎1丁目10

古地名 大字香椎字清水田

神仏混淆の名残と思われる、香椎の地区を上組と下組に分け、それぞれの「お薬師さま」を大人も子供も大事に守り親しんできました。

終戦後の混乱期、荒れかけましたが、地域の人の努力・浄財によってきれいに整備されています。



(左)上組 (右)下組

### 香椎高校と黒門

現住所 香椎2丁目9-1

古地名 大字香椎字楠田

現在の県立香椎高校は大正10(1921)年、糟屋郡立糟屋実業女学校として創立されました。場所は神功皇后の御神徳にあやかるように選定されました。大正11(1922)年、貞明皇后が香椎宮行啓の折、女学校の2階から香椎瀧にある御島を遠望をされました。黒門には、博多の実業家太田清蔵氏と初代校長に関わる経緯の掲示板があります。香椎地区でもっとも歴史のある高校の正門です。



### JR 香椎橋梁

現住所 香椎1丁目-7

古地名 大字香椎字楠田・杉山

JR香椎線は博多湾鉄道が建設しました。

明治37(1904)年須恵駅～西戸崎駅間が開通し、

建設当時の橋が点検・保守がなされ、現在も健在で貴重な鉄道橋です。現在は新鋭の蓄電池車が走っています。



## 下原・唐原・香住ヶ丘

### 宗勝寺 (ソウショウジ)

現住所：下原5丁目892

古地名：大字下原字高節

曹洞宗のお寺で通称「山寺」と呼ばれており、小早川隆景の重臣・浦兵部宗勝が母の菩提のため、永禄12(1569)年に真福寺を創建しました。文禄元(1592)年、浦宗勝が逝去後昌光山宗勝寺と改めました。



### 須賀神社 (祇園社)

現住所：唐原1丁目8

古地名：大字唐原字大畑

ご祭神は須佐之男命で、創建は古く香椎宮創建の神亀元(724)年以前から、この地の氏神として祀られていたようで地元では祇園宮の名で親しまれています。

本殿は火災にあい、弘化2(1845)年、神殿を再建しました。



### 高塚稲荷神社

現住所：香住ヶ丘7丁目2-1

古地名：大字香椎字長崎

香椎花園入口の西側にあります。

神功皇后は御島で神託を問い、片男佐に上陸後休息され、山越えをして鎧坂を通り、浜男から香椎の大本宮へ行かれたと言い伝えがあります。

昔は白砂青松の海岸で地元有力者が稲荷社を祭ったところ、多くの参拝者の通行で沼沢地に細道ができました。



### かしかえん

昭和13(1938)年4月に香椎チューリップ園として開園したのが始まりです。その後遊園地として拡張・整備を行い、昭和31(1956)年、総面積12万㎡の敷地内に四季折々の草花が咲き誇り、子供から大人まで楽しめる都市型遊園地としての「西鉄香椎花園」が開園しました。



# 立花山・三日月山

## 立花山



立花山は東区と新宮町、久山町にまたがる標高367mの山で「二神山」「井楼（せいろう）山」とも呼ばれています。

古くは霊山として信仰の対象であり、玄界灘を航海する船から見える二つの峰が重要な目印でした。（香椎・博多からは三峰に見えます）井楼とは敵を見張る櫓のことです。

対宋貿易以来、貿易港として栄えた博多の富を狙った攻防戦が度々あり、筑前の重要拠点として豊後の大友貞載が九州一の立花山城を築きました。

豊臣秀吉の九州統一後、小早川隆景が名島城築城まで使われましたが、黒田藩が筑前に入るとともに廃城となりました。

## 三日月山

三日月山は立花山に続く267mの山で、大宰府政庁への狼煙台のろしがあったといわれています。

## 三日月湖（長谷ダム）

三日月山の麓に平成5（1993）年に完成した福岡市の水がめとして7番目の長谷ダムがあります。

揚水式のダムで、管理棟横の河童が揚水時はまわって知らせてくれます。

立花山、三日月山はハイキングコースが

あり、長谷ダムの左岸側はウォーキングコースとして市民が楽しんでいます。

## 老いの山城

現住所：香椎台5丁目

古地名：大字香椎字寺熊



平成になって開発された香椎台5丁目に老の山公園があります。その北側に老いの山城がありました。

立花山城の支城で、天正14（1586）年、島津勢が立花山城を攻めた時、香椎宮の大宮司14歳の大善氏うじつぐ続が老いの山城に立て籠もり防いだといわれています。

麓には里城があり普段は山城より降りて生活をする屋敷群がありました。

## 老の山公園・大榎

現住所 香椎台5丁目10

古地名 大字香椎字里城・寺熊

檀日宮で亡くなられた仲哀天皇の棺が、この木で作られたと伝えられています。

樹齢4000年といわれる大木です。



## 香椎周辺の遺跡

### 香椎 B 遺跡

現在地 香椎 3・4～香椎台 2・3・4・5 丁目

古地名 大字香椎地区

香椎には遺跡がたくさんあります。香椎 B 遺跡から旧石器時代の原の辻形台形石器が出土をしています。この時代には人々の生活の場であったことがわかります。



上) 香椎 B 1 次 石匙

右上) 香椎 B 1 次 石斧

右下) 香椎 B 1 次

黒曜石石鏃



### 舞松原古墳

現住所：舞松原 4 丁目 10

古地名：大字香椎字倉谷

舞松原団地北側の丘陵頂部にある全長 37m, 高さ 4m の帆立貝式古墳。

鉄製の斧・鎌・鍬先が出土しました。

4 世紀末ごろに築造されたこの地域の首長墓と考えられます。



### 唐津街道

現在地 下原, 香椎東, 香椎駅前 1 丁目

古地名 大字下原, 大字浜男, 大字香椎

江戸時代は肥前唐津・筑前福岡藩の参勤交代に重要な街道でした。

香椎地区の主な通過ポイントは国道下原交差点, 石原橋(唐原川), 兜塚横, 香椎橋(香椎川), 浜尾神社前, J R 鹿児島本線を横断し多々良から箱崎を通り唐津へ向かっていました。

黄色のライン・唐津街道



### 「点と線」名残の桜

現住所 香椎駅前 2 丁目

古地名 大字浜男字屋敷

松本清張の代表作「点と線」には昔の J R 香椎駅から海岸までの街並みの描写があり, 岩場の多い海岸で事件が起きています。

事件解決場面の一つとなった桜の老木が西鉄香椎駅前にあります。





## アイランドシティ



アイランドシティは、博多港の航路整備で生じたしゅんせつ土砂等を有効活用し、和白干潟のような自然環境にも配慮をしながら、港湾機能の強化や先進的町づくりを進めている新たな都市空間です。

面積 401.3ha のアイランドシティには、住宅地のほか、照葉小中学校、照葉北小学校、こども病院等の公共施設や緑地が整備されている「まちづくりエリア」と、国際コンテナ物流拠点として、青果市場（ベジフルスタジアム）等の産業物流施設が集積する「みなとづくりエリア」があります。

また、約 3 km にわたる御島水域周回ルート（御島グリーンベイウォーク）には、日本最



大級の歩行者専用海上橋である「あいたか橋」が架かっています。この橋には、4 箇所の休憩スペースがあり、遠くには立花山が、そして海中には御島神社の鳥居や群れ集う鳥たち等、変化に富む景色を、海風を感じながら楽しむことができます。

この「あいたか橋」では冬の強風が欄干にあたって奏でられる「モガリ笛」の様な心地よい音色が聞こえます。

## 香椎操車場跡地と千早駅周辺地区



香椎操車場は昭和 34（1959）年に貨物専門の操車場として開設され、その操車場と鹿児島本線・西鉄宮地岳線を横断して千早と若宮方面を結んだ高架橋が「千早陸橋」と呼ばれていました。操車場には博多・吉塚地区の貨物取り扱い設備が集約され、昭和 30 年代から高度経済成長に至る福岡のまちの産業発展に大きな役割を果たし、陸橋も線路を

挟んだ東西のまちをつなぐことで人々の生活に欠かせないものとして利用されてきました。しかし、昭和 59（1984）年には操車場の使用停止、平成 16（2004）年には区画整理事業に伴い陸橋も撤去されました。現在は、千早中央公園の中にモニュメントが残されています。

また、千早駅周辺地区は、福岡市総合計画で香椎駅周辺地区として東部広域拠点に位置付けられ、千早駅周辺校区を「活動核」、香椎駅周辺地区を「生活文化核」として、2つの核が相互に活力を高め合う「あれい構造」での広域拠点づくりを目指しています。その一



環として、平成 28（2016）年には、JR・西鉄千早駅前に、東市民センター、東図書館、千早音楽・演劇練習場、千早証明サービスコーナーなどからなる複合施設（なみきスクエア）が誕生し、地域情報の発信、文化・芸術活動などの場として多くの人たちに利用されています。

# 香椎



第1版  
平成20年9月  
第2版  
平成24年3月  
第3版  
平成29年3月  
第4版  
令和2年2月

発行 福岡市東区総務部 生涯学習推進課  
編集 東区歴史ガイドボランティア連絡会「歩歩歩（さんぽ）会」

## 出典

- ・「不老水神社ならびに絵馬殿」の絵画 香椎宮絵画作者須谷銀洋氏
- ・「みどり・歴史・ひとの和香椎東」香椎東校区創立35周年記念事業実行委員会
- ・「香住ヶ丘校区沿革史」香住ヶ丘校区沿革史づくり実行委員会編
- ・「香椎タウンストーリー」ホームページ
- ・「香椎宮歴史散策ご案内」香椎宮歴史散策案内大看板政策実行委員会
- ・「平成18年度東市民センター歴史講座“ひがし区歴史入門”活動報告書」
- ・「平成19年度東市民センター歴史講座“ひがし区歴史入門”活動報告書」
- ・使用地図：明治33年国土地理院、東区ガイドマップ

### 【お問い合わせ】

福岡市東区総務部 生涯学習推進課

☎ 812-8653 福岡市東区箱崎2丁目5-4-1

☎ 092-645-1144 FAX092-645-1042

E-mail [gakushu.HIWO@city.fukuoka.lg.jp](mailto:gakushu.HIWO@city.fukuoka.lg.jp)

●東区歴史ガイドボランティア連絡会「歩歩歩（さんぽ）会」のホームページを公開しています  
「さんぽ会トップページ」URL:<http://e-sanpokai.rojo.jp/>